

# 大日本国防婦人会機関誌

# 『日本婦人』

## —「カッポウ着」と銃後・軍事援護 1938～1942

監修・解題—広瀬 玲子 推薦—成田 龍一

資料提供—愛知大学 豊橋図書館、  
滋賀県立男女共同参画センター、  
東京大学大学院法学政治学研究科附属  
近代日本法政史料センター(明治新聞雑誌文庫)、

造本—A5・並製・総約3,300頁  
価—168,000円(配本毎・別冊分売可)

【第一回配本】2022年10月 配本揃価33,000円 ISBN978-4-910363-85-1

- ・第一巻(324頁) 15,500円  
『日本婦人—大日本国防婦人会機関誌』48号～53号  
(日本婦人編集部、1938年1月～6月)
- ・第二巻(344頁) 16,000円  
『日本婦人—大日本国防婦人会機関誌』54号～59号  
(同上、1938年7月～1939年12月)
- ・別冊(約74頁) 1,500円(別冊のみ分売可) ISBN978-4-910363-89-9  
\*解題、総目次細目、索引、発行年月一覧表

【第二回配本】2023年4月 配本揃価36,000円 ISBN978-4-910363-86-8

- ・第三巻(336頁) 18,000円  
『日本婦人—大日本国防婦人会機関誌』  
60号～62号(日本婦人編集部、1939年1月～3月)  
63号～64号(大日本国防婦人会総本部、1939年4月～5月)
- ・第四巻(340頁) 18,000円  
『日本婦人—大日本国防婦人会機関誌』  
65号～69号(同上、1939年6月～10月)

【第三回配本】2023年10月 配本揃価49,000円 ISBN978-4-910363-87-5

- ・第五巻(322頁) 18,000円  
『日本婦人—大日本国防婦人会機関誌』(大日本国防婦人会総本部)  
70号～74号(1939年11月～40年3月)
- ・第六巻(312頁) 15,000円  
『日本婦人—大日本国防婦人会機関誌』(同上)  
75号～78号(1940年4月～7月)
- ・第七巻(318頁) 16,000円  
『日本婦人—大日本国防婦人会機関誌』(同上)  
79号～83号(1940年8月～12月)

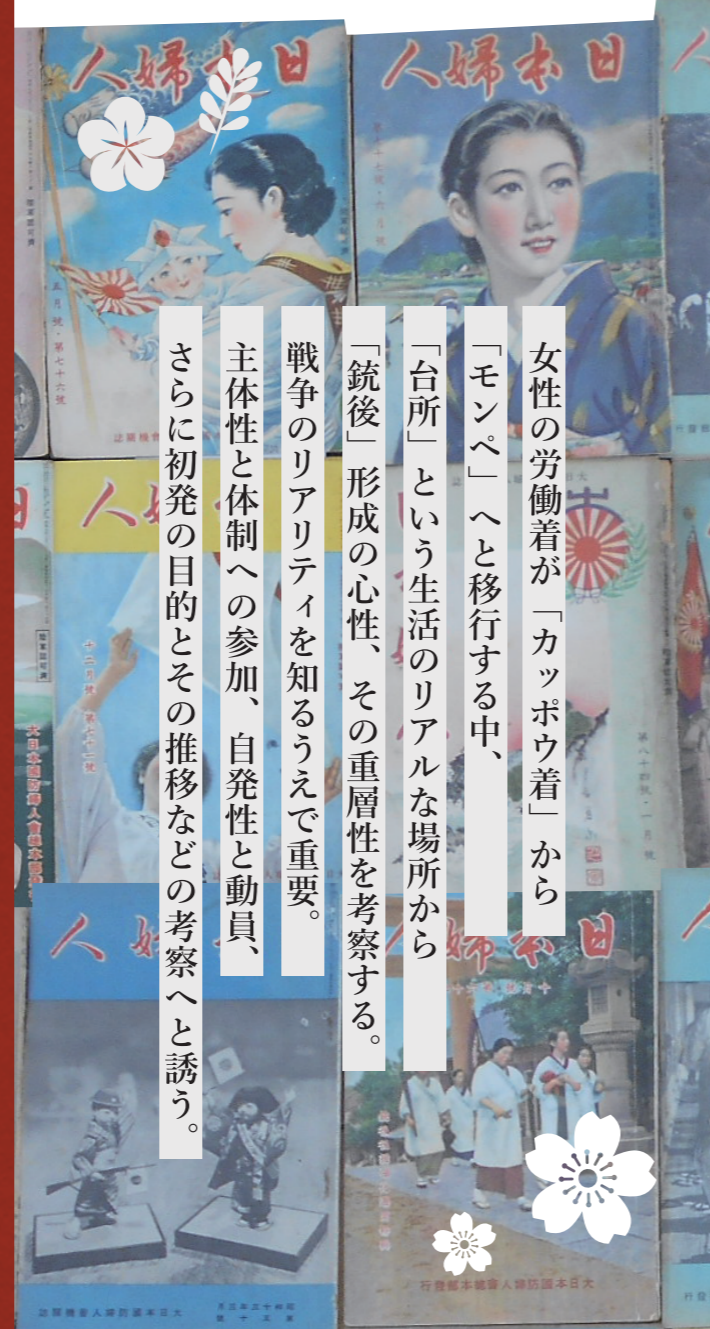
【第四回配本】2024年4月 配本揃価50,000円 ISBN978-4-910363-88-2

- ・第八巻(350頁) 19,000円  
『日本婦人—大日本国防婦人会機関誌』(大日本国防婦人会総本部)  
84号～88号(1941年1月～5月)
- ・第九巻(268頁) 15,000円  
『日本婦人—大日本国防婦人会機関誌』(同上)  
89号～92号(1941年6月～9月)
- ・第十巻(296頁) 16,000円  
『日本婦人—大日本国防婦人会機関誌』(同上)  
93号～98号(1941年10月～42年3月)

Kanazawa Bumpokaku  
金沢文圃閣

〒920-0867 金沢市長土塚2-16-30  
Tel. 076-261-8884 Fax 233-3111

□書店様へ…ありがとうございます  
直接小間までお申し込みください



女性の労働着が「カッポウ着」から「モンペ」へと移行する中、「台所」という生活のリアルな場所から「銃後」形成の心性、その重層性を考察する。戦争のリアリティを知るうえで重要。主体性と体制への参加、自発性と動員、さらに初発の目的とその推移などの考察へと誘う。

類縁書のご案内

西原和海 監修・解題  
『女性満洲』  
—「全満唯一の女性文化雑誌」  
【全8巻+別冊】

B5判 糸上製函/A5判 並製(別冊のみ) 総2,616頁  
¥184,000 2018～20年刊【復刻版】

1942年創刊号～満洲発行の雑誌としてはきわめて残存率が低いとされる1945年7月の第41号までを収録。植民地支配とジェンダーの複雑なありようを接近する34冊分。特に41号は満洲の出版状況の最末期を語るものとしても第一級の歴史資料。池川玲子/成田龍一—推薦

完結

※本書は、『日本婦人(1942～45年・大日本婦人会発行)』復刻版(不二出版、2011)と同名異タイトルであるが、両タイトルの活用により戦争と女性の態様が一層解明可能となるだろう。  
※本パンフレット作成に当たり本書解題などを参照した。

# 大日本国防婦人会機関誌

# 『日本婦人』

## —「カッポウ着」と銃後・軍事援護 1938～1942

全10巻  
+別冊

監修・解題—広瀬 玲子

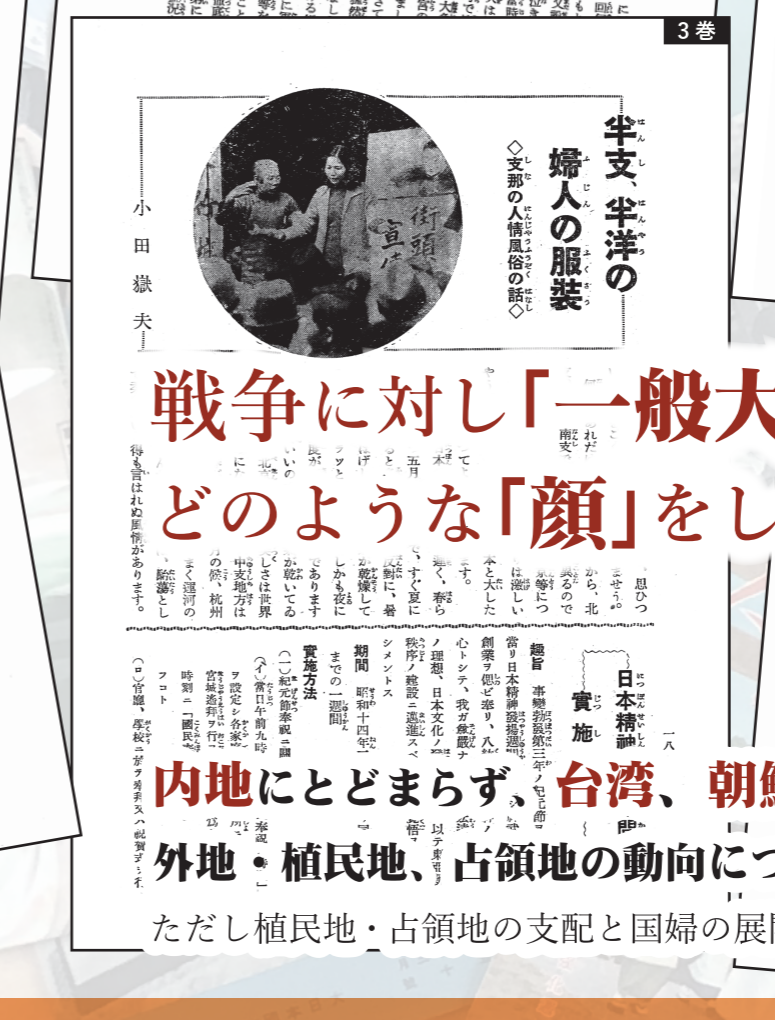
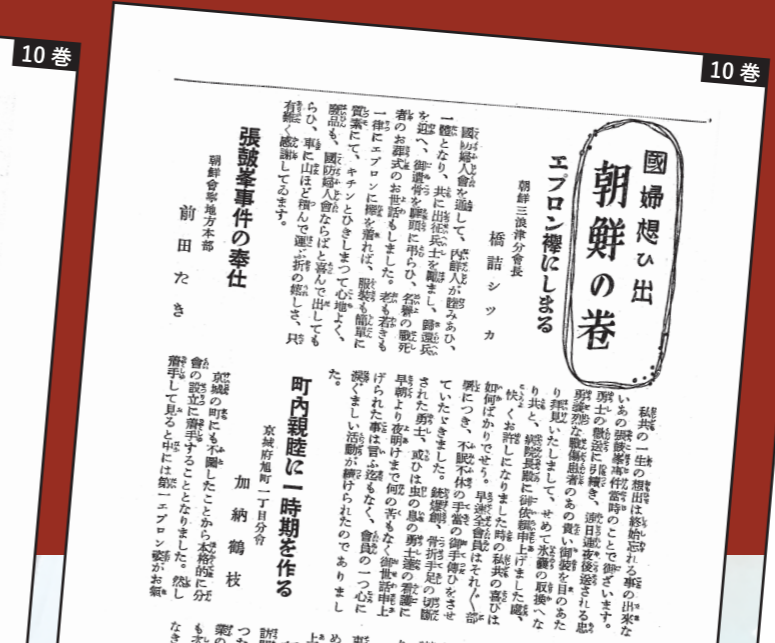
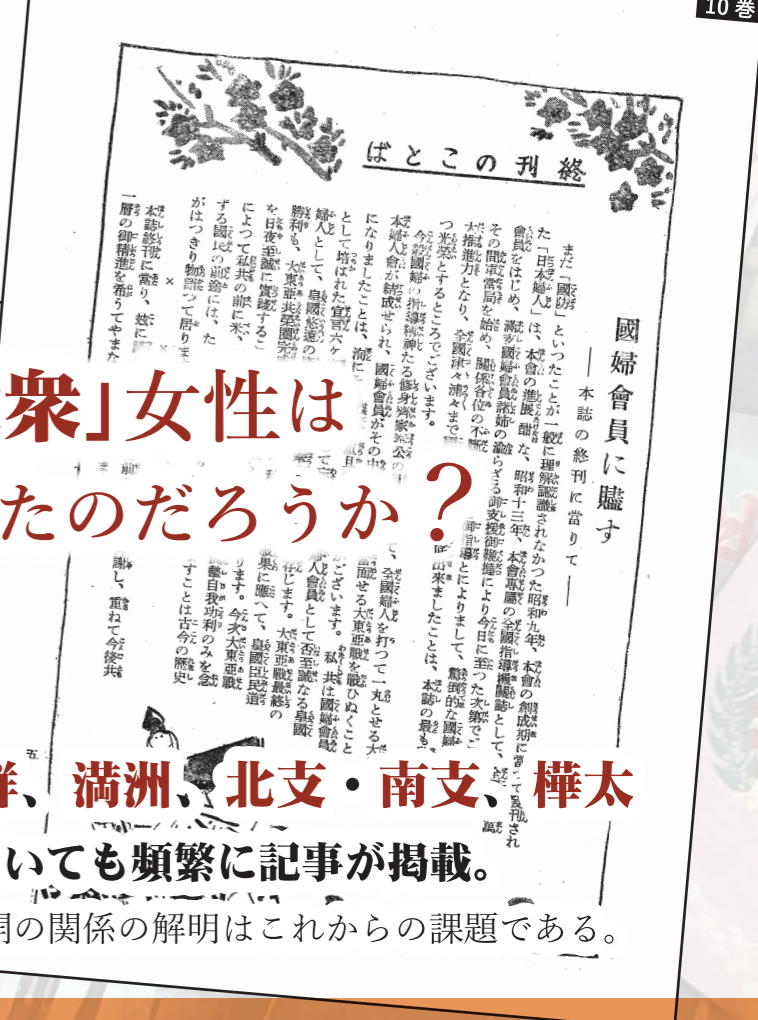
推薦—成田 龍一



1930年代後半、日本内地最大の女性組織団体になった「大日本国防婦人会」。軍人とは関係を有しない一般婦人が集まり軍事支援をはじめた点に広く女性に訴える基礎があった。逆に軍はこれを銃後の戦争協力や思想統制に利用した。

日中戦争勃発の半年後、「大日本国防婦人会」に機関誌が生まれる。この雑誌は従来、「大日本国防婦人会」を含む軍事扶助六団体の雑誌として、同タイトルで発行されていたが、1938年1月第48号から「大日本国防婦人会」のものとなった。そして「大日本国防婦人会」が「大日本婦人会」へと統合される1942年3月第98号まで続く。

本質は、「『母性愛』を奉仕と犠牲の精神に転化させることによって、挙国一致への心理的基盤を補強」(鹿野政直)したことにある。発行したメディアを通じて、実態・実相を明らかにする。



内地にとどまらず、台湾、朝鮮、満洲、北支・南支、樺太  
外地・植民地、占領地の動向についても頻りに記事が掲載。  
ただし植民地・占領地の支配と国婦の展開の関係の解明はこれからの課題である。

〈結婚適齢期の子女もつ母の心得〉 子女の結婚と国民の義務	田中孝子 (東京市結婚相談所長)
〈結婚適齢期の子女もつ母の心得〉 非常時下青年男女の結婚理想	木村よしの (東京市結婚相談所伊勢丹出張所内)
科学兵器のねだんは？	湧井ハル (日清紡績西新井工場分会)
〈私の職域奉公〉 産業戦士の覚悟	湧井ハル (日清紡績西新井工場分会)
前線のおばさん部隊	松下紀久雄 (絵と文)
決戦態勢下の婦道実践	和知雅子 (大日本国防婦人会台湾本部長)
〈国富の感激を語る—この苦心・この感激〉 嬉しい想ひ出	松本時子 (朝鮮京城支部大新分会)
〈国婦想ひ出—東部の巻〉 満鮮の印象	齊藤勝子 (新潟地方本部副本部長)
〈国婦想ひ出—中部の巻〉 満鮮に仰ぐ日章旗	泉谷花子 (岡山県小川郡支部理事)
〈国婦想ひ出—朝鮮の巻〉 張誠峯事件の奉仕	前田たき (朝鮮海寧地方本部)
〈国婦想ひ出—朝鮮の巻〉 町内親睦に一時期を作る	加納鶴枝 (京城府旭町一丁目分会)
〈国婦おもひで—台湾の巻〉 偉大な白襪教育	有福光子 (台湾本部教化分会)
〈国婦おもひで—台湾の巻〉 真心の送迎	小野菊子 (台湾新竹市副分会長)

## 推薦文 『日本婦人』から見えてくるもの 成田龍一 (日本女子大学 名誉教授)

井上ひさしの戯曲『きらめく星座』(初演 1985年)は、日米開戦の前夜(1940年12月)から、おおよそ一年間の「庶民」生活をえがくが、大日本国防婦人会と思いき会活動に参加する「ふじ」が、登場人物のひとりである。「ふじ」はバケツ体操を披露するなど(井上は、あえて時間をずらして、この場面をもりこんでいる)、戦時の光景には「婦人会」の活動が絶えず付随している。

大日本国防婦人会(以下、国防婦人会と表記)は、大阪国防婦人会として出発した。1932年3月のことで、それを報じた『大阪朝日新聞』(3月27日)は、「台所から街頭へ」「家庭婦人が活躍」との見出しをつけている。おりしも、大正デモクラシーが、前年の「満州事変」を契機に、戦争の時代に入り込む時期である。デモクラシーから戦時体制への転回の現れとして、国防婦人会は、愛国婦人会、大日本連合婦人会とともに、女性たちの動員の拠点となる。

上流の女性が集まり、長い歴史を持ち、内務省の管轄下にある愛国婦人会、国家(文部省)が関与して結成された大日本連合婦人会に対し、国防婦人会は陸軍と関係を有している。そして、なによりも大阪の主婦が主体的、自発的にその始まりを作った点に特徴を有する。その活動の概要は、藤井忠俊『国防婦人会』(岩波書店、1985年)が、詳細に考察している。

\* \*

さて、こうした国防婦人会に集った女性たちは、どのような想いを有していたであろうか——この問いは、藤井が明らかにした、「日中戦争の銃後形成史」の一コマとしての国防婦人会の考察をさらに押しすすめる方向性のひとつとなろう。国防婦人会総本部の機関誌である『日本婦人』は、そうした記事に充ちている。一例として、最終号となった『日本婦人』第98号(1942年3月)を開いてみると、「想ひ出特輯号」と銘打ち、関係者の「想ひ出」がこもごも語られている。その「想ひ出」は、「本部長」「分会長」といった指導者の位置にある女性であることにもよっているが、みな、苦勞のなかの満足、充足感を語っている。では、そこに一会員として参加していた女性たちも同様の感慨を有したであろうか。動員するもの—動員されるものとの意識の相違はあるのだろうか。さらには、戦争の展開によって、女性たちの意識は変わってきたのではなかろうか……。機関誌『日本婦人』を読むことによって、そうした問題が、あらたに見えてくる。

そして、こうした「銃後」の心性、その重層性を考察することが、戦争のリアリティを知るうえで重要なこととなろう。主体性と体制への参加、自発性と動員、さらに初発の目的とその推移などを考察しながら、1930年代の女性たちの経験に学ぶことは、コロナ禍やウクライナ侵攻といったなかで、21世紀を生きる私たちにとって、示唆される点が多いはずだ。



# 「大日本国防婦人会」の活動……

1. 慰問袋作製募集送付
2. 出征凱旋部隊・艦隊兵の送迎接待、慰安会の開催、慰問品の寄贈
3. 戦死者遺骨弔意・葬儀参列・香奠供物の寄贈・墓地の清掃
4. 出征家族・戦死者遺家族の調査並慰問救恤及就職の斡旋
5. 傷病兵の慰問・入院患者慰問・見舞品の寄贈

# 「カッポウ着」……

従来の婦人団体は、和服に紋付黒羽織という「よそ行き着」で集まり、会場は着飾った婦人たちのサロンの様相を呈していた。立派な衣装を持っている奥様がたが集まる敷居の高いものと庶民女性の目には映っていた。この常識を「大日本国防婦人会」の「カッポウ着」は打ち破った。「カッポウ着」一枚あれば参加できる大衆的・庶民的な女性団体の誕生であった。軍部によって統制された団体とはいえ、「カッポウ着」には女性の気持ちが反映されており、「大日本国防婦人会」の大衆性・庶民性をあらわす表象となった。

# 豊富な写真グラビア・絵（漫画）欄……

外地・植民地における前線の様子・会員活動状況を掲載、ニュースを絵入りで解説。

# 「読者の声」欄……

活動に参加した会員の生の声が掲載。女性の「自発性」を見て取れる。



## 総目次（抄録）

- 満洲国銃後のまもり—満洲国防婦人会発会式便り（口絵）
- 協和の光家庭より—「満洲国防婦人会」の結成されるまで
- 〈われ等は海の子〉 ころとわをみがく海洋少年園児たち
- 天ヶ瀬 行雄（大日本海軍少年団主事海軍主計大尉）
- 女の髪綱 岡本 かの子
- 事変と軍用犬 坂本 健吉（社団法人帝国軍用犬協会副会長／陸軍少将）
- 日満両国の銃後の力たらん—かたく手を握って誓う
- 張徐 芷卿（満洲国防婦人会名誉会長／満洲国務総理大臣夫人）
- 個人間の信用を重んずる国民—支那の人情・風俗の話 小田 嶽夫
- 樺太の国婦を語る 鮎貝 ひで
- 〈銃後に綴る〉 傷痕の勇士を慰問して 鈴木 久（東京本部日本橋第六分会長）
- 〈銃後に綴る〉 境内清掃に奉仕して 岡本 ヒサ（朝鮮新義州櫻町分会長）
- 〈銃後に綴る〉 自給自足、遺族をまもる
- 伊藤 リソ（延岡支部（宮崎）伊形分会副分会長）
- 国防パンツの裁ち方と作り方（寄稿） 杉原 八十路（東京本部日黒駒場分会員）
- 日支親善の青島 宗像 節子（青島支部）
- 〈支那事変国防献金美談集〉 学校生徒児童の部
- 朝鮮に於ける国婦の趣旨龍山本部

- 北京に於ける国婦
- 〈ロシヤの人情風俗の話〉 哀れむべき浪費癖 竹尾 式
- この姿を見よ！ 大久保 弘一（陸軍省情報部歩兵中佐）
- 〈国婦文苑〉 皇紀 2600 年宮崎神宮神域拡張工事奉斎作業を終えて
- 谷村 サヤ（宮崎大宮分会長）
- 〈国婦文苑〉 やまとなでしこ—出征軍人へ慰問誌を贈って
- 由良 美津榮（兵庫県上郡春日部分会会長）
- 〈地方本部だより〉 各力の慰問興行—川崎支部だより／三遠本部第二回大会／幹部会開催の状況—鹿児島地方本部だより／皇祖大廟並神社仏閣参拝／北葛支部—奈良本部管内結成総会／出征遺家族、傷兵慰安会—朝鮮国婦だより／第一線将兵と労苦を共に—中支安慶支部だより／大陸最前線に国婦
- 〈白エプロン〉 遺家族慰安会 高橋 澄（北海道紋別部白瀧分会）
- 〈白エプロン〉 マッチ空箱更生の提唱 板垣 こと（新潟県中蒲原郡村松町分会）
- 〈読者文芸〉 霞ヶ浦航空隊見学旅行の記 神澤 婦美子（埼玉県加須支部長）
- 満洲国防婦人会の全貌 張徐 芷卿（満洲国防婦人会会長）
- 〈援護ニュース〉 帰郷傷病勇士に健康診断網／期間後の死歿勇士遺族を援護／籍に入っていない遺族に准扶助料支給
- 内鮮の同化と国婦の使命 鈴木 庫三（陸軍省情報部陸軍輜重兵少佐）

### 台湾の巻

偉大な白樺教育

臺灣本部 有福 光子

一般に白樺教育といふのは、白樺の樹皮を煮た汁を飲むことであるが、それは単なる迷信ではなくして、白樺の樹皮には、ビタミンCが豊富に含まれており、これを飲むことで、貧血や壊血病を予防することができる。また、白樺の樹皮には、タンニンも含まれており、これは、血行を促進し、体を温める効果がある。

台湾では、白樺の樹皮を煮た汁を飲むことが、非常に盛んである。これは、台湾の気候が熱帯であるため、熱帯病を予防するために、白樺の樹皮を飲むことが、非常に効果的である。また、白樺の樹皮には、ビタミンCが豊富に含まれており、これを飲むことで、貧血や壊血病を予防することができる。

台湾の白樺教育は、非常に偉大なものである。これは、台湾の気候が熱帯であるため、熱帯病を予防するために、白樺の樹皮を飲むことが、非常に効果的である。また、白樺の樹皮には、ビタミンCが豊富に含まれており、これを飲むことで、貧血や壊血病を予防することができる。

### 南京に於ける 国婦の現状

流石は緊張せる前線

須藤 理 助

南京に於ける国婦の現状は、非常に緊張している。これは、南京が前線に近く、空襲の危険にさらされているためである。また、食糧や物資の不足も、国婦の生活を苦しめている。

国婦たちは、前線に近く、空襲の危険にさらされている。また、食糧や物資の不足も、生活を苦しめている。しかし、国婦たちは、前線に近く、空襲の危険にさらされている。また、食糧や物資の不足も、生活を苦しめている。

南京に於ける国婦の現状は、非常に緊張している。これは、南京が前線に近く、空襲の危険にさらされているためである。また、食糧や物資の不足も、国婦の生活を苦しめている。

